

～北広島市第5次総合計画の推進に向けて～

平成24年度検討テーマ

「子育て支援・人づくりプロジェクト」に関する

提言書



平成25年3月

北広島市総合計画推進委員会

はじめに

北広島市総合計画推進委員会は、市総合計画推進委員会設置条例により設置され、総合計画の策定、進行管理及び評価に関する事項についての調査と審議を行うこととしております。

具体的には、総合計画を構成している政策・施策・事業の現状確認や検証を行い、総合計画を着実に推進させていくための意見を交換するといった作業を通じて、その結果を、次期推進計画をはじめとする総合計画の見直しに反映させていこうというものです。

委員会では、総合計画において市が特に重点的・戦略的に取り組むべき施策として設定された「重点プロジェクト」を軸として意見を交換することとし、平成24年度は「子育て支援・人づくりプロジェクト」の検証を行い、市の子育てに対する支援や人づくりに関する事業について提言書として取りまとめました。



重点プロジェクト

総合計画では、子育てしやすい環境や多様な分野で活躍する人材の育成、地域の特性を生かした交流の促進、住みやすい住環境や利便性の高い交通など本市の魅力を磨き、市内外へ積極的に発信することにより、交流人口や定住人口の増加を図り、持続可能な都市経営を行うため、以下の3つのプロジェクトを推進していくこととしています。

- ①子育て支援・人づくりプロジェクト
- ②にぎわい・魅力づくりプロジェクト
- ③住みたくなる地域づくりプロジェクト

検討に向けた委員会としての基本方針

委員会では、総合計画においてめざす方向を踏まえて、重点プロジェクトに位置付けられた事業について、市が行った事務事業評価の結果や事業に関係する資料をもとに検証を行い、総合計画の着実な推進に向けて検討を行います。

また、新たな施策・事業の提案、手法の工夫・改善、類似する事業の追加や整理・統合、予算配分などについても効率的かつ効果的な推進をめざし検討してまいります。

平成 24 年度 検討テーマ

『子育て支援・人づくりプロジェクト』

【展開方針】

①地域に活力を与え、子育て世代が住み続けたいまちを実現

～子どもを安心して生み、健やかに育てられる環境づくりを進めます。

②市民ニーズや社会情勢に対応した積極的な施策を展開

～仕事と子育ての両立の支援、教育環境の整備、地域全体で支える子育てなどを実施します。

③多様な分野における人づくり、地域の活性化につながる人づくりの推進

～生きがいや心の豊かさを求めるすべての世代の学習機会を充実させて、市民がいきいきと暮らし、充実した毎日を送ることができる環境をつくります。

「安心できる子育て」「健やかな子どもの教育」「いきいきとした人づくり」を主要な取組みとし、具体的な取組みを横断的に取り組むことにより、このプロジェクトの総合的な成果を上げることとしています。

提言書について

『子育て支援・人づくりプロジェクト』の主要な取組みである「安心できる子育て」「健やかな子どもの教育」「いきいきとした人づくり」について、プロジェクトのめざす方向性、具体的な取組みと現状、市としての評価を整理したものをもとに、委員会において検討をした結果を提言として取りまとめました。

1. 安心できる子育て

【めざす方向性】

子どもを安心して生み、健やかに育てられる環境づくりを進め、仕事と子育ての両立の支援など子育てニーズに対応する施策を実施していきます。

【具体的な取組みと現状】

①妊娠・出産・育児に関する相談や保健指導・助成の実施

法令で義務付けされた健診事業のほか、マタニティスクールや育児中の親同士の交流、地域の高齢者をサポーターとして知恵や経験を活かすなどの各種育児支援を実施している。

②子育てニーズに対応する保育サービスの提供

市独自に上乘せした子どもの医療費の給付や保育園での一時預かり、会員制による病児緊急預かりを実施している。

③子どもの居場所づくり

広葉小学校跡施設に児童館の整備（26年度から供用開始）や、老朽化が著しい公園施設の改築（トイレ等のバリアフリー化、休養・遊戯施設の改築）を実施している。

《現在取り組んでいるプロジェクトでの事業》

妊娠・出産・育児に関する相談や保健指導・助成を実施します	妊産婦保健推進事業 乳幼児保健推進事業 ファミリーサポートセンター事業 地域子育て支援センター運営事業 シルバー子育てサポート事業 子ども医療費助成
子育てニーズに対応する保育サービスを提供します	保育園一時預かり事業 病児緊急預かり事業
子どもの居場所づくりを進めます	児童館整備事業 都市公園安全・安心対策緊急総合支援事業

【市としての評価】

安心して子育てをしていくための市民ニーズに応えていく施策として有効であり、サービスの需要も高いことから、概ね現状の施策展開で効果があるものとする。

【今後に向けた提言】

- 子育てに対する支援は、少子高齢化社会における全国的なテーマであり、子育てしやすい環境を創出していくことは、市の魅力を高めることにつながる重要なポイントとなり、力を注ぐべき施策であると考えられる。
- 子育てニーズは、共働きの家庭支援や子育てをする保護者の交流、不妊治療対策など、時代の変化とともに多様化してきており、限られた予算と人的配置等の中で、現状を維持しながら、さらなる充実を図っていく必要があると考えられる。
- 現在実施している事業についても工夫・改善を加えて、より効果的な施策を推進して頂きたい。

【具体的提言】

- ファミリーサポートの対象を、育児家庭だけでなく児童のいる家庭まで拡大し、「家事代行サービス」事業としていく等、まちぐるみの支援を実施していく必要がある。
- シルバー子育てサポートにおいて、登録が少ないサポーターを増加させるための原因を分析するとともに、サポーターをシルバーに限定せず、若い方や将来教育に携わるような方々まで対象を拡げることも検討をする必要がある。
- 児童館の整備はハード面だけでなく、利用する子どもたちのニーズを把握し、学習（放課後子ども教室）、学童保育等を効率よく運用できるような体制の構築も検討をする必要がある。
- 保育園と幼稚園の総合的な施策の展開については、「子育て支援」を総合的、有機的に進めるため、幼稚園も含めた積極的な施策の展開と財政支援を検討する必要がある。
- 将来人口の目標達成に向けて、第3子以降は出産・保育・医療等の費用を支援する「(仮称)子育て家庭応援プロジェクト事業」など、少子化に歯止めをかけていく新たな施策を検討する必要がある。
- 少子化対策の一環として、不妊治療への対策などの新たな支援について検討をする必要がある。

2. 健やかな子どもの教育

【めざす方向性】

健やかに育てられる環境をめざして、教育環境の整備と特色ある学校づくり、地域全体で支える子育て体制づくりなどの施策を実施していきます。

【具体的な取組みと現状】

①学びがいのある学校教育の推進

学校図書整備、市独自の道徳教材の編集をはじめ、英語指導助手や授業補助員、学校支援ボランティアを配置して授業の充実を図るとともに、特別な支援を必要とする子ども達には学級介助員や教育支援員を配置し、障がいのある児童生徒の介助・教育支援を実施している。

②体験学習や環境教育の推進

特色ある学校づくりに向けて学校ごとに工夫した職場体験などの取組みを支援するとともに、環境保全活動の啓発事業や市有林の活用による緑の活動、健全な食習慣や生産者との交流による食と農業の関わりなどを学ぶ食農教室を実施している。

③不登校への対応と学校、地域、保護者との連携

いじめ等の未然防止、不登校対策や教育相談、家庭教育への支援のほか、青少年の健全育成に向けた環境浄化や各種啓発を実施するとともに、連携強化を図っている。

《現在取り組んでいるプロジェクトでの事業》

学びがいのある学校教育を推進します	心の教育推進事業 学校図書整備事業 授業補助員活用事業 特別支援教育推進事業 外国語指導助手活用事業 学校支援地域本部事業
体験学習や環境教育を進めます	学校教育振興事業 環境啓発推進事業 緑の活動拠点整備事業 食農教室事業
不登校への対応と学校、地域、保護者との連携を進めます	心の教室相談事業 不登校対策・教育相談事業 青少年健全育成啓発事業 青少年健全育成連絡協議会支援事業 青少年安全対策事業 家庭教育支援事業

【市としての評価】

健やかな子どもの成長をめざす施策として有効であり、一部手法の見直しや関連事業との統合を検討すべきものがあるが、施策全体としては概ね現状の展開で効果があるものとする。

【今後に向けた提言】

- 子どもの健やかな成長をめざした施策を推進することは、次世代への大切な人材を引き継ぐものであり、学びがいや特色ある教育環境を推進していく必要があると考えられる。
- 近年のいじめ問題など青少年の健全育成に関わる課題について、注視していく必要があると考えられる。
- 特色ある学校づくりや学びがいのある教育体制など、魅力ある教育環境の整備に向けて、現状を維持しながらさらなる充実を図って頂きたい。

【具体的提言】

- 学校図書整備において、学校間や市図書館とのネットワークシステムを運用して図書の相互貸し借りへの対応などの効率化を図る必要がある。また、全小中学校への司書の配置をはじめ、児童・生徒のニーズ把握や貸し出し状況の学校間格差の分析などを通じて読書機会の創出を図る必要がある。
- 特別支援学級における学級介助員や、特別な支援を必要とする子ども達に対応する教育支援員については、利用実績や今後の就学数等の見込みを基に適正な配置を進めていく必要がある。
- 授業補助員の活用は、児童・生徒と教育や生活指導などに関わることにより「人づくり」にもつながることから、教員を目指している市内在住の教員免許取得者を活用することも検討をする必要がある。
- 青少年健全育成の推進のため、専任指導員やスクールガードリーダーの配置も必要であるが、未然防止の観点から「不審者情報のメール配信」、広報による積極的な情報発信も併せて行う必要がある。
- 特色や魅力のある学校教育をめざして、小中一貫校の開設をはじめ、英会話などの特定科目や特定のスポーツを重点的に実施する学校の配置、授業の一部を英語のみで行うことなど、独創的な学校づくりを検討していく必要がある。

3. いきいきとした人づくり

【めざす方向性】

生きがいや心の豊かさを求めるすべての世代の学習機会を充実し、市民がいきいきと暮らし、充実した毎日を送ることができる環境をつくります。

【具体的な取組みと現状】

①生涯学習活動の支援・交流の促進

生涯学習事業の運営をはじめ、文化・スポーツ団体、各種サークルの企画事業、各地区生涯学習振興会への支援を行うとともに、市民に対して生涯学習に係る図書や郷土資料などの提供や近隣市交流も含めた事業を実施している。

②人権尊重、男女共同意識等の啓発

人権意識の普及啓発と男女共同参画の推進のための各種事業を実施するとともに、DV防止などの普及啓発事業を実施している。

《現在取り組んでいるプロジェクトでの事業》

生涯学習活動を支援し、交流を促進します	生涯学習市民活動団体支援事業 生涯学習振興会支援事業 元気フェスティバル連携事業 図書館サービス提供事業 図書館フィールドネット連携事業 文化団体活動支援事業 市民文化祭奨励事業 市民スポーツ活動推進事業 地域交流事業
人権尊重、男女共同意識等の啓発を進めます	人権意識の普及啓発事業 男女共同参画推進事業

【市としての評価】

すべての世代に学習機会を提供し、いきいきとした暮らしをめざす施策として、一定の成果があがっていると考えられる。

また、より効率的な手法を求めることや補助金等の適切な執行に努める必要があるが、施策全体としては概ね現状の展開で効果があるものとする。

【今後に向けた提言】

- 市民がいきいきと暮らしていくための一環である、学習機会の提供や市内外の皆さんとの交流の推進は、より多くの方々に北広島の魅力を理解して頂く施策であると考えられる。
- 生涯学習がもつ市民と市民が学び合うといった意義を踏まえ、市が関わる範囲を整理し、より市民主体の事業展開を図ることができるような体制づくりや、生涯学習拠点の効率的な運営に向けた手法などの検討を行って頂きたい。
- 女性の社会進出が重要な課題となる近年、男女の共同参画を推進していくとともに、法律相談やDV防止などの女性のための施策をさらに推進して頂きたい。

【具体的提言】

- 様々な能力を現場で発揮された経験があり、かつ現在は時間に余裕がある方などを登録する人材バンク制度を充実させて、気軽に学ぶことができる機会をより多くの市民に提供していくことに努める必要がある。
- 世代間の連携や子育ての悩みを相談できる場の創出に向けて、人材を束ね、学び合う機会と場所を提供する事業を展開する必要がある。
- 生涯学習の小さなグループが、活発な活動を自立して行うことができるようになるため、市が積極的に関わっていくよう検討をする必要がある。
- 市民にとって楽しく暮らしやすいまちをめざして、生涯学習や各種の相談などを行う中で、交流を深めることができるコミュニティの創出に向けて検討をする必要がある。
- 市主催及び共催事業の参加者満足度調査を行って事業に反映させていくなど、市民主体の事業をより充実させていく工夫をする必要がある。
- 図書館の運営について、書店が指定管理者となる等の新たな視点による運営体制が報告されていることから、今後の運営体制について検討をする必要がある。
- 図書サービスのより一層の充実に向けて、書籍を新規に購入するのみではなく、市民からの寄附を受けて活用していくことなども検討をする必要がある。
- 女性の社会進出促進のため、雇用や生活支援、DV防止など総合的な女性の相談体制を充実させていく検討をする必要がある。

検討の経過

平成 24 年度は、4 回の会議の後、提言書を提出しました。

日程	回	内容
平成 24 年 6 月 15 日	1	委員の委嘱、委員長選出、委員業務の説明 総合計画・政策評価・財政状況の勉強会など
平成 24 年 9 月 6 日	2	子育て支援・人づくりプロジェクトに係る事務事業評価 についての説明及び検証・意見交換
平成 25 年 1 月 16 日	3	子育て支援・人づくりプロジェクトに係る提言について の検討
平成 25 年 2 月 13 日	4	子育て支援・人づくりプロジェクトに係る提言書について の検討・まとめ
平成 25 年 3 月 25 日	—	子育て支援・人づくりプロジェクトに係る提言書の提出

総合計画推進委員会名簿

役職	氏名	職業等
委員長	鈴木 聡 士	北海学園大学工学部生命工学科准教授、 市都市計画審議会・専門委員
副委員長	澤 井 将 美	公益財団法人 日本高等教育評価機構評価委員、 前 学校法人浅井学園（北翔大学）参与、 前 市外部評価委員会委員
委員	天 羽 浩	公認会計士、前 市外部評価委員会委員、 指定管理者候補者選定委員会、学校跡施設利活用に係る 公募提案審査委員会委員
委員	桂 裕 章	札幌柏葉保育園長、前 市長期総合計画審議会委員
委員	湯 川 恵 子	北海道工業大学未来デザイン学部人間社会学科准教授